宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2021

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

建国記念の日奉祝中央式典

神武建国の心で国難克服を

神社本庁

令和3年、皇紀2681年の「建国記念の日奉祝中央式典」（主催＝日本の建国を祝う会、会長＝大原康男氏）が2月11日、東京都渋谷区の神社本庁大講堂で開催された。新型コロナウイルス感染防止対策のため主催者、関係者だけの約100名が参加した。

主催者挨拶をする大原康男会長＝2月11日、東京都渋谷区の神社本庁大講堂

網谷道弘副会長は開会の辞で「家族のような平和な国づくりが我が国の建国理想の大御心。私たちはそれをしっかり受け継がなければならない」と述べ、続いて橿原神宮遥拝、国歌斉唱の後、主催者を代表して大原康男会長が挨拶した。

「明治維新に始まる近代日本国家の建設は、王政復古の大号令に『諸事神武創業ノ始ニ原キ』とあるように、まさしく第2の神武建国だった。明治6年に太陽暦の2月11日が紀元節として定められ、学校や官庁をはじめ全国各地で奉祝式典が行われてきたが、第二次世界大戦の敗北後、GHQにより廃止された。しかし、昭和41年に祝日法が改正され『建国記念の日』として復活した。いずれの国も建国の日を最大の祝日としている。全国各地で民間が熱心に奉祝式典を行ってきたが、国からは冷ややかに扱われてきた。平成24年の衆議院選挙時に自民党が選挙公約で『政府主催で建国記念の日を祝う記念祝典を開催する』と掲げ、安倍前首相は国民に向けてメッセージを送った。この公約は安倍政権に一貫したもので、それを継承した菅義偉現首相にとっても軽視されないものだ。新型コロナウイルスが人類のあらゆる領域に重大な影響を与え、祖国日本にとっても国難のこの時に、幾多の艱難を熱意と努力によって凌いできた輝かしい歴史を思い起こしたい」

井上信治・国際博覧会担当大臣は「私は今まで政府主催による祝祭の開催を訴えてきた。菅内閣の一員として皆様の思いを受け止めたい。日本国民が力を合わせれば、コロナ禍の逆境も必ず克服できるものと信じている」と祝辞を述べ、自由民主党幹事長代理・柴山昌彦衆議院議員は「天皇・皇后両陛下は、新年のビデオメッセージで感染症や自然災害で厳しい状態にある国民の身の上を気遣われ、互いに思いやりを持ち支え合うよう語りかけられた。国民に寄り添う温かい両陛下の御心に尊崇と敬愛の念を感じてやまない。菅総理が目指す、脱炭素社会とデジタル社会の実現は新たな成長の原動力だ。少子化問題の解決、不妊治療の保険適用、待機児童の解決、国土強靭化に向けて強い覚悟を持って臨む。東京オリンピック・パラリンピックを通じ、あまたの災害から立ち直れ、多様な文化と美しい伝統が息づく日本を発信していこう。憲法改正は引き続き全国で国民世論の喚起に取り組みたい」と語った。日本維新の会女性局長の石井苗子参議院議員は「憲法は変化に合わせ改正されるべきものだが、我が国の現行憲法は公布以来75年もの間、一言一句の改正も国民投票も行われていない。日本維新の会は憲法審査会をリードしていくことを約束する」と党の姿勢を強調した。

日本維新の会・石井苗子参議院議員

井上信治・国際博覧会担当大臣

その後、菅義偉首相のメッセージが読み上げられ、登壇者の紹介と祝電の披露が行われた。成蹊大学3年の真家廉氏が決議を朗読し、満場の拍手で決議が採択された。紀元節の歌の斉唱。田久保忠衛日本会議会長による聖寿万歳の後、今林賢郁理事が閉会の辞を述べた。「明治の先輩たちの英知と努力によって国の独立が維持され、今の私たちがある。今日は大日本帝国憲法が公布され、神武天皇が橿原で即位された日だ。道義あるものとは交わり、道義なきものは打ち払うという気概で務めを果たし、次世代にこの国を繋げたい」

灯

「ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。」（Ⅰコリント 1・22―25）

復活祭までの準備の期間、キリスト者は主の御業を静かに思い起こします。

かつて、ユダヤ人であろうと異邦人であろうと、十字架で処刑された一人の指導者をメシヤとして仰ぎ見るのは愚かなことと受け止められた。彼の純粋な愛から発せられることばや行いは人々に驚きを与えた。にもかかわらず誹謗中傷的にされ抹殺された。そこに人間の愚かさがある。自らの姿を直視することへの恐れ、創造主の純金の輝きを目の当たりにすることへの怖れがある。

人々がどれだけの恐怖を抱こうとも、愚かなる神は、いつまでもどこまでも、人類を愛で抱こうとして我々に働きかけ、語りかけてくる。（I）

社説

渋沢栄一と資本主義の倫理

NHK大河ドラマ「青天を衝け」が始まった。主人公は「日本資本主義の父」とも称される渋沢栄一。タイトルは藍玉を売るため信州に行く峠を越える途中、渋沢が詠んだ漢詩の一節「勢衝青天攘臂躋」（青空をつきさす勢いで肘をまくって登り）から取られた。

経済成長が鈍り、少子高齢化に加えてコロナ禍で閉塞感の漂う日本には、明治の初めのような元気の回復が望まれている。国民一人ひとりの力を国づくりに生かす仕組みを作ろうとした渋沢の生涯を概観してみよう。

父から商売を習う

渋沢は1840年、今の埼玉県深谷市血洗島の豪農の家に生まれた。栄一の父市郎右衛門は本家の三男から分家に婿入りし、家を建て直した人。栄一は7歳の時から従兄の尾高惇忠（あつただ）に四書五経や「日本外史」を、父に商売を習った。土地柄から養蚕と染料の藍玉作りが主で、良質の藍玉を作らせるため、栄一は農家の品評会を開き、一番の人を上座に座らせ競争心を刺激している。

ある時、栄一が父の名代として岡部の代官屋敷に行くと、代官に渋沢宗家は千両、栄一の家は五百両持ってくるよう命じられる。金をもらう方が威張っている世の中は間違っていると思った栄一は、やがて討幕を志すようになる。

水運で通じている水戸から尊王攘夷運動が伝わってくると栄一はかぶれ、同志を糾合して外国人を皆殺しにし、幕府を窮地に追い込もうとした。そのため高崎城を襲う前夜、京都の偵察から帰ってきた同志に、弾圧されるからやめるよう言われてあきらめ、身を隠す。

江戸で接触した一橋家の用人に同家の家来に採用され、一橋慶喜のいる京都に行く。慶喜に見込まれた栄一は一橋家の渉外役になり、薩摩や長州の要人と折衝するようになる。当時、栄一が構想していたのは、徳川家を廃絶して幕府をやめ、慶喜が雄藩連合の共和政体のトップに就くこと。そのため将軍にならないよう進言していたが、将軍家茂が病死したため慶喜は15代将軍になってしまう。

幕府顧問でフランス公使のロッシュから1867年のパリ万博に参加を求められた慶喜は弟の昭武を派遣し、水戸藩の家臣に加え渋沢を付けることにした。旅の途中、スエズ運河の巨大工事を担当しているのが国ではなくレセップス社だと知り驚く。通訳から株式会社は国家をしのぐ金も集められると知り、フランスでその仕組みを勉強しようと考えた。

フランスで渋沢の世話をしたのが銀行家のフロリヘルトで、渋沢は彼を介してフランスの資本主義を学ぶ。渋沢は彼が軍人と対等に話すのを見て、日本もそんな国にしなければならないと考える。当時のフランスは、クーデターで皇帝になったナポレオン3世が、私企業を競わせて計画的に鉄道網を整備するなど、経済が急速に発展していた。広く資金を集め、労働者の賃金を上げて経営を成功させ、国を豊かにするという資本主義の仕組みを渋沢は目の当たりにしたのである。

徳川崩壊の知らせを受け帰国した渋沢は、大隈重信の求めで大蔵省に出仕し、日本経済の基礎作りに取り組む。度量衡の統一から統一貨幣の発行、税金の米から金への変更、そして武士の廃絶に伴う金禄公債の発行など。その金禄公債を出資金に創設したのが八十八銀行などのナンバー銀行で、渋沢は銀行や株式会社の条例も作っている。

明治6年に渋沢は日本初のベンチャーキャピタル・第一国立銀行を創設。アメリカの銀行システムにならった非中央銀行系の紙幣発券銀行で、次いで株式市場整備のため証券取引所を創設した。鉄道や海運会社に続いて損保と生保、紡績会社に製紙会社など、渋沢が設立した会社は約500社にも上る。

論語と算盤

グランドデザインは政府が作り、それをもとに私企業が自由競争するというのが、渋沢がフランスで学んだサン＝シモン主義である。また『論語』を学び直した渋沢は、孔子が公正な利益に基づく商業を推奨しているのを発見し、朱子学の『論語』解釈は間違いだとした。『論語と算盤』で儒教道徳と経済を結び、資本主義の倫理としたのである。

さらに渋沢は経済人を教育するため東京商業学校（一橋大学）を作り、晩年には福祉の必要性を知って孤児たちの東京養育院を作り、後に「福祉の父」としても称賛された。

防府天満宮で牛替神事

生きた神牛が当たる

山口県防府市

番号コマを刺しとる抽選児童

暦のずれにより、今年の節分は124年ぶりに2月2日で3日が立春。山口県防府市にある菅原道真公を祀る防府天満宮（鈴木宏明宮司）では2日の開運招福豆まきに続き3日、全国でも珍しい生きた牛が当たる「牛替（うしかえ）神事」が行われた。

牛替とは、その年に天神さま（道真公）が乗る御網代輿（おあじろこし）を引く牛の取り替えのこと。今年で110回という伝統ある神事で、抽選により11月に行われる御神幸祭の「神牛」が当たり、ほかにも、金・銀・銅の牛の置物をはじめ数千点の豪華な景品が福運者に授けられる。コロナ禍で例年より少ないが、福運を願う参拝者が集まった。

防府天満宮の御神幸祭は、大宰府から防府に遷り留まった道真公の御霊に、毎年「無実の知らせ」を伝え、慰めるため、御霊を乗せた御網代輿を、ゆかりの港「勝間の浦」まで渡御する祭り。当選者は輿を引く神牛の手綱を取る「神牛役」を務め、それまで牛は農家に預け、育てられる。例年はオス・メスの2頭だが、今年は生後8か月のオス1頭。

3日5時すぎから拝殿で牛替神事抽選児童奉告祭があり、古式ゆかしい装束に身を包んだ抽選児童13人とその保護者、池田豊防府市長に同宮関係者らが参列した。児童は防府市内の小学校から選ばれた6年生の男子。浄め祓いを受け、玉ぐしをささげて参拝した児童らに金子宮司は「皆さんの参加を道真公もお喜びであろう。6年生はコロナ禍で学校が休校になり、友達と一緒に勉強したり、遊んだりできない日が多く、大変だったと思う。コロナ終息も祈りつつ牛替神事抽選会を執り行いたい」と挨拶。真剣な面持ちの児童らに、弓とやりの抽選道具が授与された。

6時すぎから抽選。拝殿前の回廊に設けられた台の上に、番号コマを入れる梅型の大きな木箱が置かれている。最初に、拝殿廊下に置かれた「いろはに…」が書かれた回転盤に児童が弓を射て組を決め、次いで別の児童がやりで番号コマを刺し取り、当選番号が決まる。その場で読み上げられた番号は同宮ホームページなどで発表された。

今年の神牛

牛替券は協賛している防府市内の商店などで購入でき、2月2～3日に天満宮で番号券と引き換える。

菅原道真を祀る天神さま（天満宮）は約1万2000社あるが、道真が大宰府で亡くなった翌年に創建された防府天満宮は「日本初の天神さま」で、北野天満宮、太宰府天満宮と共に「日本三大天神」とされている。

菅原氏の前身は野見宿禰を家祖とする土師氏（はじし）で、大和国菅原邑に住んでいたことから菅原姓を名乗ることに。ちなみに大江氏は、桓武天皇が縁戚の土師諸上（もろがみ）らに大枝の姓を与えたのが始まり。

同宮の社伝によると、左遷された道真は大宰府に向かう途中、周防国（山口県）国司だった同族の土師信貞を頼り、本州最後の寄港地となる防府の勝間の浦に着き、しばし休息した。そして「ここは天皇のおられる京の都と地続きで、願わくはこの地に住まいを構えたい」と言い残し、九州に旅立ったという。「防府」の名称は周防の国府による。

延喜3年（903）2月25日、道真が大宰府で薨去した日、勝間の浦に光が射し、酒垂山（さかたりやま）に紫色の瑞雲がたなびくのを見た国司は、道真の御霊がこの地に帰ってきたと思い、翌年、酒垂山に祠を建立し「松崎の社」と号した。これが防府天満宮の創建とされ、以後は代々の国司が祭事を行ったという。

天地

埼玉県深谷市にある渋沢栄一記念館を訪ねたのは昨年9月下旬。年配スタッフに「なぜ『青天を衝け』になったのか、知っていますか？」と聞かれ、「そうだ、知らなかった！」。「NHKの制作クルーが当館に来て、栄一の漢詩を見て思い付いたのです」と教えてくれた▼日頃は仲間と米と小麦づくりにいそしんでいる天地子が、深谷と聞いて連想したのはネギ。長い白根がきれいで甘い深谷ネギは鍋やすき焼きに欠かせない。記念館のエントランスにも、郷土産品としてしっかりネギが展示されていた▼驚いたのは、講義室で栄一のアンドロイドが講義してくれたこと。大阪大学の石黒浩教授が製作したという。内容は持論の「論語と算盤」。グローバル経済に加え、コロナ時代の新しい倫理が求められている今、心すべきことだと拝聴する。司会のスタッフとのやり取りもあり、「好みは？」と聞かれ、栄一が「もちろん煮ぼうとう」と答えたので、会場は爆笑▼記念館の裏側に、大きな栄一の銅像があった。もとはJR深谷駅前にあったが、大きすぎて見づらいので、公民館に記念館を併設したときに移転し、生誕地が見える裏側に据えたという▼記念館から徒歩10分で、栄一の生家「中の家」へ。蚕室のある造りで、藍玉小屋もあった。ここでも元気なおじさんたちに迎えられ、さぬきから来たというと、「そりゃ、さぬきうどんのほうがおいしいだろう」と。お昼はお勧めの店へ。煮ぼうとうはみそ味で、山梨のほうとうに似ていた。

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所
■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二 東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話03（3353）2940
FAX03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀 エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話:03-6265-0852 FAX:03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078(882)9305 FAX078(801)0006

日本よ、蘇れ 日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
（定価：本体2000円＋税）
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL03-3813-6344 Fax03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL03-6657-9000 Fax03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋霊 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな苦では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

Amazonで好評発売中！
人間の苦悩故に、神は悲しまれている
神と出会うということ
私の若き日の神との出会いと聖書 前田誠
リバース 霊肉ともの救いはいかになされるか
イエスとニコデモの魂の対話とは 坂口優
定価1000円
定価1500円＋税
グッドタイム出版
〒104-0061 東京都中央区銀座7－13－6
編集室 tel 0475-44-5414 FAX 0475-44-5415